

事務局(案)

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学
平成 29 年度 業務実績に関する評価報告書



平成 31 年 2 月
山陽小野田市公立大学法人評価委員会

目 次

第 1	平成 29 年度の業務実績評価について	1
1	評価に関する基本的な考え方	1
2	評価方法	1
3	年度評価における評価項目と評価基準	2
第 2	評価結果	4
1	全体評価	4
2	大項目別評価	6
参考	山陽小野田市公立大学法人評価委員会 委員名簿	12
3	事業単位・指標単位評価	13
参考資料 1	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学業務実績の 評価に関する基本的な考え方	30
参考資料 2	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の 業務実績評価実施要領	31

第1 平成29年度の業務実績評価について

山陽小野田市公立大学法人評価委員会は、「公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学（以下「法人」という。）の平成29年度における業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価にかかる業務が法人の過度の負担とならないように留意する。
- (6) 評価に仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

2 評価方法

評価は、法人の自己点検・評価に基づいて行うことを基本とする。業務実績評価は、「全体評価」、「大項目別評価」、「事業単位・指標単位評価」により行った。

(1) 全体評価

事業単位・指標単位評価及び大項目別評価の結果を踏まえ、法人の中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

(2) 大項目別評価

事業単位・指標単位評価の結果を踏まえ、6つの大項目（15区分）ごとに、中期計画の進捗状況について評価を行った。

(3) 事業単位・指標単位評価

年度計画に記載された事項ごと（事業単位）及び評価指標ごと（指標単位）の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

3 年度評価における評価項目と評価基準

(1) 評価項目

評価区分		評価の対象、内容等
項目別 評価	事業単位 評価	年度計画のⅠからⅥの最小項目として記載されている各事項の達成状況 ※ ⅦからⅪに係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。
	指標単位 評価	年度計画の各数値目標の達成状況
	大項目別 評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における6つの大項目（15区分）ごとの進捗状況
		Ⅰ. 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
		1 教育に関する目標を達成するための措置
		2 学生への支援に関する目標を達成するための措置
		3 研究に関する目標を達成するための措置
		Ⅱ. 地域社会との連携、地域貢献に関する目標を達成するための措置
		Ⅲ. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
		1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置
	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	
	3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置	
	4 事務等の効率化、合理化に関する目標を達成するための措置	
	Ⅳ. 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	
	1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置	
	3 資産の管理及び運用に関する目標を達成するための措置	
	Ⅴ. 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	
	Ⅵ. その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	
	1 施設設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置	
	2 安全衛生管理に関する目標を達成するための措置	
	3 法令遵守及び危機管理に関する目標を達成するための措置	
全体評価		項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況

(2) 評価基準

評価区分		評定	標語	評価の目安
項目別評価	事業単位評価	a	年度計画を上回る	上回るもしくは十分な実施
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回るもしくは実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣るもしくは実施せず
	指標単位評価	a	年度計画を上回る	達成率 100%以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率 80%以上 100%未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率 60%以上 80%未満
		d	年度計画を大幅に下回る	達成率 60%未満
	大項目別評価	A	中期計画の進捗は順調	大項目別（15区分）に、中期計画の進捗状況について、事業単位評価及び指標単位評価から総合的に勘案し、評価
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
		D	中期計画の進捗は遅れている	
全体評価	中期計画の進捗は順調		中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	
	中期計画の進捗は概ね順調			
	中期計画の進捗はやや遅れている			
	中期計画の進捗は遅れている			

第2 評価結果

1 全体評価

(1) 評価結果

中期計画の進捗は概ね順調である

(2) 評価理由

ア. 総括

平成 29 年度は公立化後 2 年目を迎えるとともに、中期計画に基づき平成 30 年 4 月の薬学部の開学に向けた準備が行われた。法人から提出された平成 29 年度の業務実績報告書に基づいて行った評価委員会の事業・指標単位評価においては、年度計画の全 88 項目のうちの約 99%の 87 項目が「a 評価：年度計画を上回る」又は「b 評価：年度計画を概ね実施」とされており、年度計画どおりに実施されていることが認められる。

その内訳を見てみると、「a 評価」が 54 項目で約 61%、「b 評価」が 33 項目で約 38%となっており、全体的には、中期計画の達成に向けて着実に取組が進められていると評価できる。また、大項目別評価（6 項目）のうち、「A 評価：中期計画の進捗は順調」が 1 項目、「B 評価：中期計画の進捗は概ね順調」が 5 項目であることから、年度計画を上回る取組が見受けられるものの、その取組の多くが年度計画どおりに実施されているものと判断した。

なお、年度計画における目標の設定が「～について検討する。」等、その成果を評価する上で十分理解できない項目や、計画の実施状況等における実績の記述においても評価の判断基準が不十分な項目が散見された。また、年度計画に対する実績の記述が具体的でない項目や年度計画に対応していない項目も見受けられた。このことは、昨年度の評価結果においても指摘していたことであるため、年度計画の目標設定に当たっては、可能な限りその成果を判断する根拠となる目標の数値化を図り、実績の記述については年度計画に対する具体的な内容を記載するなど、第三者が十分に理解できる評価の判断根拠の明確化に一層努めていただきたい。

しかしながら、前年度の評価と比べて、「a 評価」と「b 評価」の割合が逆転し、「a 評価」が大幅に増えている（34 項目から 54 項目し、割合が約 39%から約 61%となった。）ことから、中期計画の達成に向けて年度計画を着実に進めているものと認められ、中期計画の達成に向けた取組は、概ね順調に進められているとの評価が相当と判断した。

このような中、平成 30 年度には山口県、そして、西日本の公立大学で初となる薬学部が開設したことにより大学に対する期待が高まる中、平成 31 年度には公立化後に入学した学生が卒業を迎えることとなり、地域社会への貢献や卒業後の社会での活躍を通して、山陽小野田市立山口東京理科大学の評価が問われることとなる。そのため、教育・研究・社会貢献という大学の機能を最大限に高める必要があり、教育と研究の最高執行責任者である学長がリーダーシップを発揮し、教職員の意欲と能力を最大限に引き出していくことが重要である。その結果として、山陽小野田市立山口東京理科大学の評価が一層高まることを期待し、全体評価の総括とする。

イ. 今後に対する意見

昨年も同様の意見を述べたが、業務実績に対する自己評価については、市民目線に立った分かりやすさの観点が求められる。このため、曖昧な表現をできるだけなくし、数値化などにより具体的な目標設定を行い、実績についてもどのような取組をしたかを具体的に分かりやすく記述することが大切である。また、業務実績等の記載内容については、市民にも理解し易い表現・語句の使用に努めていただき、難解な語句等の使用は極力避け、やむなく使用する際は、注記で説明する等、分かりやすい表現を心掛けることが望まれる。

また、評価委員会が適切な評価を行うためには、計画の進捗度を評価するのか、改善の成果を評価するのか、何について評価をするのかが判断しやすいよう、年度計画を策定する際には、適正な目標設定に努めていただきたい。

表 全体評価と大項目別評価

全体評価	大項目別評価						評価項目数
	大項目（6区分）	評価結果	A 中期計画の 進捗は順調	B 中期計画の 進捗は概ね 順調	C 中期計画の 進捗はやや 遅れている	D 中期計画の 進捗は遅れ ている	
中期計画の 進捗は概ね 順調	I. 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	A	○				事業評価 28 指標評価 6
	II. 地域社会との連携、地域貢献に関する措置目標を達成するための措置	B		○			事業評価 14 指標評価 2
	III. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	B		○			事業評価 21
	IV. 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	B		○			事業評価 7
	V. 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	B		○			事業評価 4
	VI. その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	B		○			事業評価 6

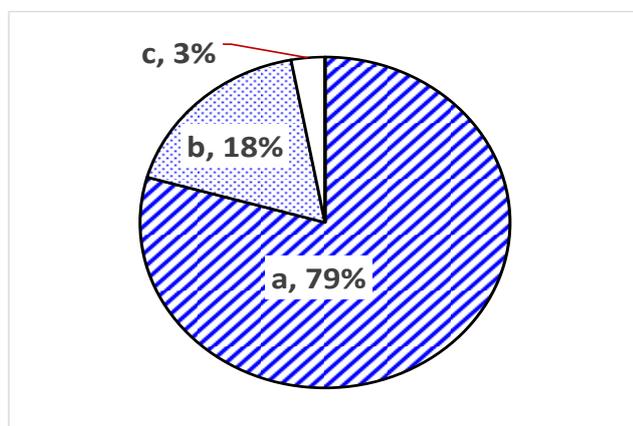
2 大項目別評価

(I) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

[No. 1 ~ No.28、[1] ~ [6]]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、34 項目のうち、a 評価が 27 項目、b 評価が 6 項目、c 評価が 1 項目であり、順調な進捗状況にあると評価できる。	A (進捗は順調)
-------------	---------------------------------------------------------------------------	---------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価〔全体の項目数：34〕



	評価	項目数
	a	27
	b	6
	c	1
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 一般入試の志願倍率が平成 28 年度の 6.4 倍から 17.0 倍と大幅に伸びている。 [1]
- (2) 学生の健康相談、心的支援及び生活相談等を行う体制の整備を行い、きめ細かな学生への支援体制の充実を図った。 【No.15】
- (3) 市内県内企業学内企業説明会の充実に努め、県内企業就職率を平成 28 年度の 26.3%から 34.0%と 7.7 ポイント上昇させた。 【No.21】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

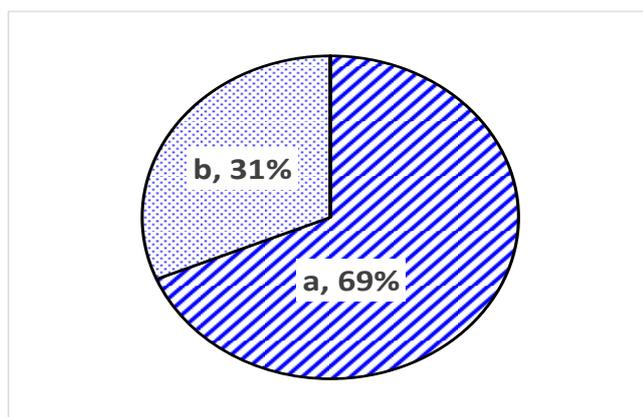
- (1) 進路決定率が平成 28 年度の 94.5%から 92.2%となり、2.3 ポイント落ちている。目標達成に向けてキャリア教育・就職支援体制の充実にし、しっかりと取り組んでいただきたい。 [3]
- (2) 外部資金獲得額が平成 28 年度の 96,585 千円から 76,761 千円となり、約 20.5%の減 (▲19,824 千円) となっている。産学官連携、他大学や研究機関との交流を積極的に行い、研究活動の活性化を図り、外部資金の獲得の拡大を目指していただきたい。 [5]

(Ⅱ) 地域社会との連携、地域貢献に関する目標を達成するための措置

[No.29～No.42、[7][8]]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、16項目のうち、a評価が11項目、b評価が5項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	-----------------------------------------------------------	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価〔全体の項目数：16〕



	評価	項目数
	a	11
	b	5
	c	0
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 県内高校出身者を対象とした地域推薦を実施し、工学部では入学定員200人のうち46人(23%)を、薬学部では入学定員120人のうち30人(25%)を地域推薦の入学定員として設定し、県内出身者の割合を高めた。【No.38】
- (2) 入学者に占める県内出身者率が、平成28年度の20.1%から27.0%と大幅に伸びている。[7]
- (3) 県内企業就職率が、平成28年度の26.3%から34.0%と大幅に伸びている。[8]

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

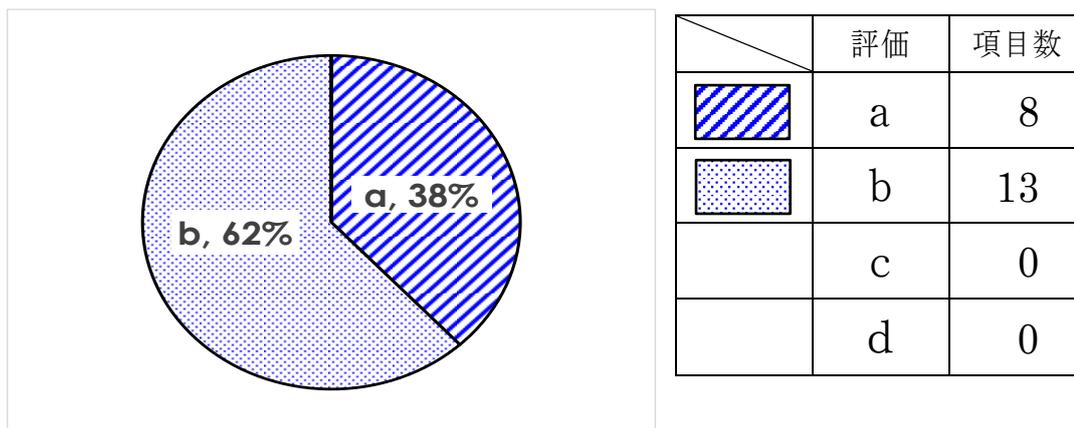
- (1) 入学者の県内出身者率及び県内企業就職率が平成28年度から大幅に伸びているが、進路決定率が平成28年度から下がっている。県内企業への訪問等の活動が平成28年度の138社から74社と大幅に減少しているため、県内就職割合を向上させ、学生の地元定着を推進するため、取り組みを充実させていただきたい。【No.42】

(Ⅲ) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

[No.43～No.63]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、21項目のうち、a評価が8項目、b評価が13項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	-----------------------------------------------------------	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価〔全体の項目数：21〕



★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 平成 29 年 4 月に薬学部設置準備室長を任命し、理事長、学長、山陽小野田市副市長を含めた薬学部設置準備連絡会を毎週開催し、設立団体と公立大学法人との連絡を密に行うことで、堅実に準備を行い、平成 30 年 4 月に薬学部を開設した。【No.58】
- (2) 競争的研究資金である科学研究費補助金を獲得するために、科学研究費補助金の申請説明会を開催するとともに、申請した教員に対し、そのインセンティブとして教育研究費を加算して分配をし、教員にインセンティブが働く仕組みを構築した。【No.59】
- (3) 事務職員の定年後の再雇用制度に関する規程を整備した。また、事務職員全体の 45.5%である女性職員の活躍の場の拡大に努め、係長級以上に占める女性職員の割合が 50.0%となった。【No.61】

▼今後に期待する事項

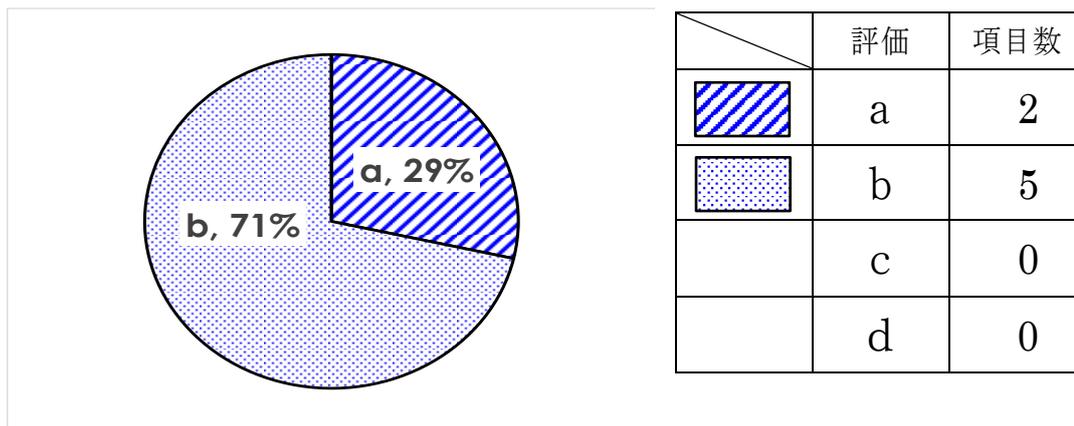
下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 教育研究活動の活性化や教員の資質向上に資する仕組みづくりに積極的に取り組み、外部研究費の獲得増を目指していただきたい。【No.59】

(IV) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 [No.64～No.70]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、7項目のうち、a評価が2項目、b評価が5項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	---------------------------------------------------------	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：7]



★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 志願者数は、工学部が 2,450 人（平成 28 年度 1,790 人）、薬学部が 1,448 人で、両学部合わせて 3,898 人であった。また、入学定員の 320 人を超える 330 人の入学者を確保できたことにより、健全な大学運営の基盤となる自主財源を確保した。 【No.68】

▼今後に期待する事項

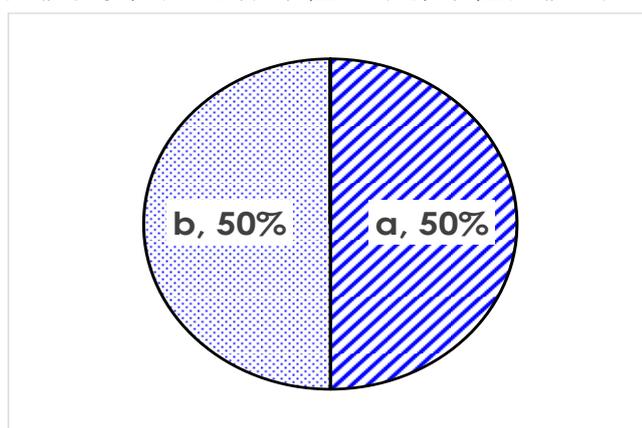
下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 外部資金獲得支援体制の充実に向けての取組を積極的に行い、教育研究活動の質の向上及び教員の資質の向上につながることを期待する。 【No.65】
- (2) 学生・教員が安心して教育研究活動を行うことができるよう、施設及び環境の整備を今後も積極的に実施していただきたい。 【No.70】

(V) 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置 [No.71～No.74]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、4項目のうち、a評価が2項目、b評価が2項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	---------------------------------------------------------	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：4]



	評価	項目数
	a	2
	b	2
	c	0
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、大学評価基準に適合していると認定された。【No.71】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 自己点検・評価を実施し、その評価結果を大学の運営に適切に反映させることができる体制を構築し、評価結果に基づく改善内容が確実に実施されるよう、今後も引き続き取り組まれることを期待する。

【No.73】

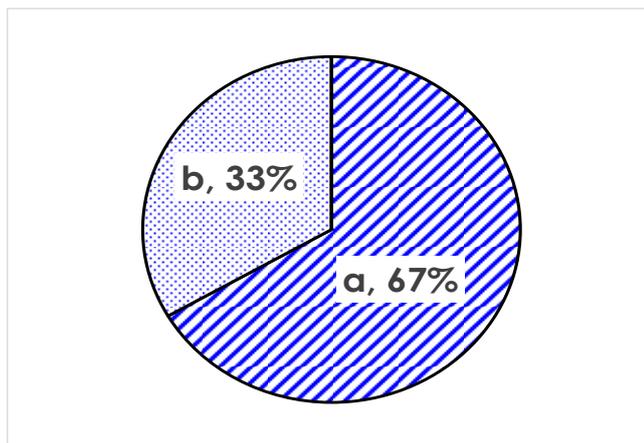
- (2) 自己点検評価報告書を作成し、大学のホームページに掲載し、大学の情報発信に取り組まれたが、このほかの大学の各種情報についても積極的に取り組まれることを期待する。

【No.74】

(VI) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 [No.75～No.80]

評価委員会 評価	評価の項目全体では、6項目のうち、a評価が4項目、b評価が2項目であり、概ね順調な進捗状況にあると評価できる。	B (概ね順調)
-------------	---------------------------------------------------------	--------------------

※ 評価委員会の事業単位・指標単位評価 [全体の項目数：6]



	評価	項目数
	a	4
	b	2
	c	0
	d	0

★特筆すべき事項及び評価できる事項

- (1) 臨床心理士と心療内科医を配置し、臨床心理士による相談を週4回、心療内科医による相談を月1回実施し、学生及び教職員の健康保全に努めた。 【No.78】
- (2) 学生及び教職員を対象に、AED（自動体外式除細動器）の使用法等の救急講習会を開催するとともに、AEDの設置場所を1箇所から2箇所に増設し、学生及び教職員の安全衛生に努めた。 【No.79】

▼今後に期待する事項

下記の事項については、年度計画に基づき着実に実施し、中期計画の達成に向けて、更なる取組を期待したい。

- (1) 学生、教職員、学生宿舎入居者に対する防災訓練、煙避難訓練、消火訓練を定期的に行い、危機管理体制の整備に努めているが、異常気象が毎年のように発生する中、万一の事態に備えた体制づくりに引き続き取り組んでいただきたい。 【No.80】

参考 山陽小野田市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏 名	役 職 等	備考
う え の じ ゅ ん じ 上 野 順 司	一般社団法人小野田青年会議所 直前理事 長／監事	
お お も と り え 大 本 理 恵	株式会社山口銀行 小野田支店長	
こ う だ か た し 江 田 方 志	小野田商工会議所 副会頭	
ひ ら の ゆ う じ 平 野 雄 二	元 山口県病院薬剤師会 理事 元 宇部興産中央病院 薬剤部長 〔再任〕	
や ま も と ひ ろ や す 山 本 普 康	元 九州共立大学大学院 教授 元 新日本製鐵株式会社 主幹研究員 〔再任〕	

任期：平成 31 年 1 月 21 日～平成 33 年 1 月 20 日